令和7年度　学 校 評 価 報 告 書（島根県立隠岐水産高等学校）

校訓	
	1. 真理と正義を愛せよ 2. 勤労と責任を重んぜよ 3. 心身ともに、たくましく鍛えよ

教育目標	
	1. 水産・海洋教育をとおして、豊かな人間性と人格の形成を図り、地域社会に貢献できる人材を育成する。 2. 水産・海洋関連産業に関する、専門的知識と技術を身につけた人材を育成する。 3. 心身ともにたくましく鍛える教育活動を実践し、勤労意欲、責任感、正義感の旺盛な人材を育成する。

目指す学校像	
	県内(隠岐島内)の生徒を大切にしつつ、全国から生徒を受け入れ切磋琢磨する全国区の高等学校へ！

【評 価】 A:十分達成できた　B:概ね達成できた　C:やや不十分だった　D:全く不十分で達成できなかった　E:わからない(評価できない)

評価計画					自己評価			外部評価	
学校重点努力目標			重点努力目標	各部分掌	具体的方策・施策	評価達成度	改善策	評価達成度	提言・コメント
1	生徒が自ら意欲的に取り組み、学び、伸びていく集団づくりに取り組む	①一人一台端末の利用、対話的な要素、振り返りの要素を取り入れた授業改善に積極的に取り組み、生徒の学習への動機付けや探究心の向上を促す。 ②基礎・基本的な「知識・技能」を着実に獲得・定着させながら、それらを社会の様々な場面でどのように活用できるか、考えさせる。 ③授業での学びを様々な資格取得に関連付けて、相互に学びの深化を促す。	一人一台端末の利用、対話的な要素、振り返りの要素を取り入れた授業改善に積極的に取り組み、生徒の学習への動機付けや探究心の向上を促す。	教務部	研修や授業見学を通して、ICT機器の効果的な活用や生徒の学習意欲を高め、探究心が向上するような授業実践を学ぶ機会を設ける。	B	今年度、3回の授業力向上セミナーを実施し、授業改善に向けて、意識を高めることができた。一方、ICT研修を行えなかったので、来年度、より教職員のICT活用スキルが向上するよう研修や勉強会を行っていきたい。	B	●図書館、本を借りるだけでなく、学習や新しい情報に触れられる工夫もあるとよい。 ●家庭生活、トラブル対応 寮生全員が役割を持つことで責任感や思いやりを育み、自身の存在意義を感じられることで寮生活が充実したものになる。 トラブルも成長の機会として活用できるよう、定期的な話し合いや相談体制の整備が重要。 ●舎務部教員の寮生に対する生活指導や生徒指導部教員の努力に敬意を表している。 ●寮生の生活指導を通して、規範意識や自己有用感の育成に力をいれている状況がよく分かる評価報告であり、教科指導においても各科・コースで特色ある授業や実習に取組んでおり、高く評価する。 ●海技士資格の全員合格は素晴らしい成果。 ●常に安全確保を最優先して実習を行い、生徒にも危機意識を徹底させることが必要。 ●衛生管理の徹底は、消費者に選ばれる基準であり、生徒にも徹底意識を持たせることが重要。 ●予習意識の対応は、先生方の負担を考慮しつつ、生徒の学力に応じた個別対応策の工夫が望まれる。 ●基本的生活習慣を身に付けさせるためには、根気と粘り強い指導が必要とされる。
			授業での学びを様々な資格取得に関連づけて、相互に学びの深化を促す。	教務部	各授業担当者と連携を図り、教科横断的な取り組みを支援することで、相互に学びの深化を促す。	B	各コース内の連携はある程度できていたが、コースの枠を越えた連携や普通教科と専門教科の連携が不十分だった。公開授業週間を設定するなどして、専門教科の学習内容を他コースや普通教科の先生方にも知ってもらう機会を作りたい。		
			学習情報センターとしての機能の充実と、生徒・教職員の活動の支援に努める。	図書部	館内の環境整備に努め、他の図書館との連携を図りながら充実した資料提供を行う。	A	今後も、町立図書館や県内高校との連携を密に行い、資料収集に務める。		
				図書部	広報活動を活発に行い、学習情報センター機能を生徒・教職員へ周知するとともに、積極的な利用を促す。	B	毎月行っている企画展示や図書館だよりの配布を継続する。また、今年度利用が少なかった2・3年生に対して授業での図書館活用を促し、本を借りる生徒を増やす。		
			授業や学校行事等を円滑に実施できるように、視聴覚関係機器やICT機器の管理に努める。	図書部	関係分掌と連携し、視聴覚関係機器やICT機器の適切な準備・提供に努める。	A	教員が用いる端末については、今年度同様に対応を行っていきたい。		
			生徒が自ら意欲的に取り組み、学び、伸びていく集団づくりに取り組む。	舎務部	自己有用感を育成し、相手を思いやる行動ができるよう育む。 →寮役員を中心とした組織を形成し、寮生全員が色んな形で寮の運営に関われるような仕組みづくり。	B	寮役員を中心として様々なイベントを実施することができた。また、今年度は全寮生に各委員会に振分け、全員が寮の運営に取り組めるようにした。		
				舎務部	他との関わり方や社会人で求められる規範意識の育成を行う。 →公共物を大切にする意識の醸成、生活ルールを明確化し意識の変容を促す。	C	他者とのかかわり方において、生徒間トラブルが数件見られた。寮内の設備が壊されることもあったため、そういったことが起こることがないようにする必要がある。		
			生徒が自ら意欲的に取り組む学校生活の展開。	海洋テクノコース	上級海技士資格や関連資格の取得へ向けた取り組みを強化する。	A	本科生の4級海技士、専攻科生の3級海技士、取得希望者全員合格することができた。 2級海技士以上の指導が今後の課題である。		
				海洋テクノコース	指導方法の工夫に努め、わかりやすい授業実習を展開する。	B	ICT機器活用、ECDIS、操船シミュレータ活用の検討が必要である。		
				海洋テクノコース	安全を最優先した実習を実践する。	B	マリンスポーツ実習への安全指導を強化することにした。		
			資格試験合格率の維持向上に取り組む。	エンジニアコース	コース内での情報共有を密にし、組織的な学習指導を行う。	A	組織的な学習指導を継続するために、より計画性を持った指導に努める。		
			実習の充実を図る。	食品生産コース	地域のニーズに対応しつつ、生徒・職員数にあった実習計画を立ててそれに沿った実習を行う。 衛生面の指導の教科・徹底を図ることで、生徒の意識を向上させる。 実習の様子の記録を撮り、反省や次の計画に役立てる。本年度より時間設定で実習中に手袋、包丁などのチェックを行う。	B	衛生面の指導については、30分毎にタイマーで包丁・まな板等の調理器具、手袋、秤量器のチェックが徹底出来た。そのことによる異物混入を防げた。実習服については今年度は実習前の点検は出来たものの、実習中での点検が出来ていなかったので次年度への課題とする。		
			授業での学びを様々な資格取得に関連づけて、相互に学びの深化を促す。	資源生産コース	栽培漁業技術検定など様々な資格取得と各教科の学習内容を関連付けた授業を行うことにより、生徒の学習への意欲や探究心を高める。	B	生徒の学力や学習意欲の個人差が大きいため、それぞれの生徒に合った課題や指導方法を工夫する。		
			海技士試験の全員合格に取り組む。	専攻科	教員間の情報を密にし、生徒個々の能力・特性し適切な指導を行う。	B	乗船実習中の海技士対策について、指導教官との連携した指導を継続する。		
			予測困難な社会を生き抜くために必要な資質・能力の育成を促す。 基本的な生活習慣の確立、社会で生きるための「智慧」を隠岐水での生活を磨く。	2年学年部	(1) 基本的生活習慣を身につけ、よりよい生活や他者との関係性を積極的に作ろうとする態度を育む。 →生徒が学校や学級の規則や決まり事を理解し、自分達で、規則や規律を遵守出来るように、自治の重要性に気付く声掛けや行動支援を学年部として実施する。(校則、クラスルール)	B	生徒会活動や学校行事、乗船実習などを通して、よりよい他者との関係を作ることができた。来年度は最高学年として、後輩との関係性の構築について、声かけや行動支援を実施していきたい。		
				2年学年部	(2)生徒一人ひとりの個性や資質・能力の多面的理解に努め、計画的かつ組織的な生徒指導・寄宿舎指導等を実践する。 → 面談や学年部協議などを定期的に実施し、その状況に応じ、他部署の教員とも連携しながら、生徒を客観的に理解し、その情報を共有出来る下地を整備する。(生徒─教員─保護者との連携を強化)	B	教員間の情報共有を適宜行うことができた。来年度は進路に向けて教員と保護者との情報共有を強化するだけでなく、生徒本人と保護者もよく話し合いが行えるような土台づくりを行いたい。		
				2年学年部	(3) 特別活動(学級・生徒会・学校行事)や部活動等の学びの場におい　て、他者との関係性の中の自分を見つめ、自己理解が深まるよう促す。　→生徒一人ひとりにそれぞれ役割を選択させ、責任を持って行動する機会を増やす。	B	様々な学校行事を通して、生徒一人一人の責任感を育むことができた。来年度は、行事だけではなく学級の中での役割も重視し、生徒の日々の生活に充実感を持たせたい。		
			基礎的・基本的な「知識・技能」を着実に獲得・定着させながら、それらを社会の様々な場面でどのように活用できるか、考えさせる。	3年学年部	学年部で情報共有を密にするとともに、学年集会を月に1度実施し、生徒個人が自らな学びに向かう意識づけを行う。	B	生徒が学校や学級の規則や決まり事を理解し、自分達で規則や規律を遵守出来るように、自分たちの生活を振り返るクラスミーティングの機会を設ける。振り返りと実践のサイクルの中で、自治の重要性に気付けるように声掛けや行動支援を学年部として実施する。又、進路指導の中に基本的な生活習慣の確立の重要性や他者との協働的な関わり方の重要性を伝えることを盛り込み、社会に出る前準備として、学年部教員と進路指導部教員が協働して実施する。		
2	予測が困難な社会を生き抜くために必要な資質・能力の育成を促す	① 基本的生活習慣を身に付け、よりよい生活や他者との関係性を積極的に作ろうとする態度を育む。 ② 生徒一人ひとりの個性や資質・能力の多面的理解に努め、計画的かつ組織的な生徒指導・寄宿舎指導等を実践する。 ③ 特別活動(学級・生徒会・学校行事)や部活動等の学びの場において、他者との関係性の中の自分を見つめ、自己理解が深まるよう促す。	頭髪、服装、生徒指導の徹底に取り組む。	生徒指導部	きめ細やかな指導を学校の様々な場面で行い、全教職員との連携を図る。また立哨指導の充実にも取り組む。	B	校内の日直業務にある立哨があまり見られなかった、生徒部だけではなく全教職員との連携を図る。	B	●いじめや暴力行為の防止のため、定期的なアンケートによる状況把握はよい。日常的な生徒の様子の確認、状況把握を行い、いじめ防止に努めている。 ●1年学年部の挨拶や服装チェック、学習習慣について、生徒通しの声掛けや相互学習の場が増えることで自主性や学びあい、助け合いの意識が育ち、理解や定着にもつながる良い取り組み。 ●学びを深化させる授業の振り返りや社会との結びつきは、理解を深める上で有意義。無理のない範囲でクラス単位で共有する工夫が必要では。 ●研修会は一過性にせず、繰り返し行うことが望ましい。
			いじめ、暴力行為の防止に取り組む。	生徒指導部	定期的なアンケート調査で情報収集・早期発見に努め、関係部署・委員会との連携を密にし情報把握を行う。	A	アンケート調査内容を常に精査しの実施回数も協議し、より効果的な情報収集や早期発見に努める。		
			生徒会活動の活性化に取り組む。	生徒指導部	生徒主体で各行事等が活性化できるよう、生徒自身が個々の担当を意識して行動できるよう適切な指導を行う。	A	生徒会活動をより活性化できるよう、教員間での連携を図り主体的な活動を促す。		
			生徒自らの心身の健康について関心を持ち、主体的に健康の保持増進に努める。	保健部	健康観察、健康診断、健康相談、保健室来室状況、心の健康観察で生徒の健康課題を把握し、関係者への情報提供、連携に努め、場合によっては個別指導を実施する。	B	1学期の健康診断の結果を受け、さらに確認が必要な生徒には長期休みを利用しての病院受診を促した。う歯保有者は減少傾向にあるが視力低下の生徒が増加傾向にある。今後は家庭におけるICT機器の活用に仕方について教科や舎務部とも連携を図りながら指導を深めていきたい。		
				保健部	健康教育を計画的に実施し、生徒が安全安心な学校生活ができるようサポートする。	B	高校3年間を社会に出る準備期間と位置づけ、年次計画に沿って研修会を行ったり心の健康観察(アンケート)を実施したりした。学年部や関連する教科、教務部とも連携を図りながら、実施時期や内容の検討をしながら進めていきたい。		
			予測が困難な社会を生き抜くために必要な資質・能力の育成を促す。	舎務部	基本的な生活習慣(整理・整頓、挨拶など)を身につけ、自ら考え、行動する姿勢を育てる。 →生活時程の見直し、寮生一人ひとりが心地よい生活空間を作り上げる。	B	時程の見直し等を行い、のびのびと生活している様子が見て取れた。部屋の整理整頓が苦手な生徒が数名おり、改善が必要。		
				舎務部	あらゆる教育活動を通じて勤労意識の醸成を行う。 →寮内清掃を全員で取り組むなど全体で動く体制づくり。	B	寮内清掃において寮役員を中心に熱心に取り組む姿が見て取れた。生徒自らチェックを行うことでより良くしようという意識がある。		
			船舶職員としての自覚と資質向上に取り組む。	専攻科	船舶職員に求められる実務と精神を乗船実習や座学をとおして育成する。	A	指導教官との情報共有をより密とし、指導体制の強化に努める。		
			基本的生活習慣ならびに基礎的・基本的な「知識・技能」を確実に定着させる。	1年学年部	各教科担当との情報共有を行い、始業時間の遵守、授業への姿勢、提出物の期限尊守ができるようにする。	B	時間の遵守や挨拶については概ね出来ている。今後も継続させたい。提出物等に関しては決まった生徒が提出できない傾向にある。根気よく確認や声掛けを引き続き実施したい。		
				1年学年部	定期的に挨拶や髪型・服装を互いに確認し、維持向上できるようにする。	B	学校生活が進むにつれて、自分たちで声を掛け合いながら取り組む場面が増えてきた。個々に意識を高め更に維持向上出来るよう伝えて行きたい。		
				1年学年部	学習習慣がつくように、授業への取り組みや小テストの重要性を確認し、日々取り組むことができるようにする。	B	各教科で家庭学習が定着するように課題提出や小テスト、検定対策等を実施し、学習の仕方についても定期試験ごとに伝えてきた。試験前には意欲的に残って指導を受けたり、生徒が互いに教え学び合う姿が窺えた。日々の学習活動においてもこういった姿を見られるようにしたい。		
			生徒が自ら意欲的に取り組み、学び、伸びていく集団づくりに取り組む。 学びを進化(深化)させるために全ての授業を大切にし、振り返りを習慣化させる。	2年学年部	(1) 一人一台端末の利用、対話的な要素、振り返りの要素を取り入れた授業改善に積極的に取り組み、生徒の学習への動機付けや探究心の向上を促す。 →生徒個々に合わせた学習教材を充実させる。(class roomの活用、授業動画、学習プリント)	B	授業だけでなく進路活動などにおいても、一人一台端末の利用促進を図ることができた。さらに各教科との連携を図り、生徒一人一人が自分に合ったかたちで学習に取り組めるよう、学習教材の充実を図りたい。		
				2年学年部	(2)基礎的・基本的な「知識・技能」を着実に獲得・定着させながら、それらを社会の様々な場面でどのように活用できるか、考えさせる。 → 学びと社会の繋がりを考える学習活動やグループワークをHR活動や学年集会にて実施する。 (マネーゲーム、生活形成)目標：年3回程度	C	学年全体として、学習活動を行うことはできなかった。来年度は各分掌と連携を図りながら、それぞれの講演会などを学習にどうつなげるか学年部で検討し、生徒の意識を高めていきたい。		
				2年学年部	(3)授業での学びを様々な資格取得に関連づけて、相互に学びの深化を促す。 → 普通科会、水産科会との情報共有を密にし、教科横断型の授業を今以上に実践出来るように、2年学年部発信で共有会を持つ。	B	各生徒は様々な資格取得に取り組むことができた。教科横断型の授業に取り組むためには、今以上に普通科会と水産科会との情報共有を密にしていく必要がある。		
			特別活動(学級・生徒会・学校行事)や部活動等の学びの場において、他社との関係性の自分を見つめ、自己理解が深まるように促す。	3年学年部	最上級学年として、クラスや学年の枠を越え、学校全体を巻き込めるような学校行事を主体的に取り組めるよう支援する。	B	体育祭役員、生徒会役員、クラス役員などの役割を与え、その職責を果たすことで自己有用感を高められるような機会を創出する。勤労感や責任感、引いては社会で生きるための「智慧」をさらに磨いていくために、次年度以降も継続して生徒が主体的に活動できるように、役割を増やしていく。失敗を許容する環境を設定し、失敗から学びを得て困難を乗り越えさせる場面を設ける。		
3	生徒のキャリア形成に必要な能力・態度を育て、進路希望実現を図る	① 学校生活と社会生活、将来の夢と学業を結びつけることにより、児童生徒の学習意欲を喚起する。 ② 生徒・保護者・教員が現状を正しく認識し、必要な情報の収集・共有を行う。 ③ 水産・海洋関連産業の就職および水産・海洋系大学等への進学を支援する学校体制の推進を図る。	生徒が卒業後の未来(出口)をイメージできるような進路活動を実施する。	進路指導部	①インターンシップの計画・実施 ・町内の事業所を中心に依頼し、2年生を対象に実施する。 ②各種ガイダンスの計画・実施 ・海運系・漁業系を中心とした事業所や、本校を卒業した現役船乗りとのガイダンスを実施する。 ・本校を卒業した現役大学生とのガイダンスを実施する。 ③進路活動の基盤となる接遇指導の充実 ・生徒指導部、教務部と連携し、身だしなみとマナーに関する意識の向上をはかる取り組みを実施する。	A	①インターンシップの計画・実施⇒次年度も引き続き実施する。地域企業や関係機関と連携し、生徒が実際の就業体験を通じて職業観・勤労観を養う機会を提供する。事前学習(マナー指導)および事後学習(礼状作成等)の充実を図り、体験を一過性のものにせず、自身の進路決定に直結させる。 ②各種ガイダンスの計画・実施⇒進路行事の精選と日程の集約化を推進する。授業時数を最大限確保しつつ、必要な時期に必要な情報提供を行うメリハリのある計画を策定する。 ③進路活動の基盤となる接遇指導の充実⇒進路活動の基盤となる「接遇・身だしなみ」の向上を目指す。次年度は生徒指導部と密に連携し、日常の服装指導と進路活動時の面接指導における基準を統一する。「普段の生活が進路につながる」という意識を生徒に定着させ、社会人として通用する立ち居振る舞いを育成する。	A	●生徒に日常生活と進路を結び付けて考えさえる意識を定着させる取り組みは、自己理解や目的意識の向上にもつながる意義深いもの。 ●実習を通して水産・海洋関連への興味・関心を高め、全員の進路実現につなげた点は、高く評価できる。 ●卒業生や先輩の経験談を聞く機会を設けることで、具体的に将来をイメージし行動に移す意識をさらに高めることが望ましい。 ●四者面談は、他校にはない取り組みで、素晴らしい。今後も継続してほしい。
			生徒・保護者・教員が連携し、生徒一人一人の情報共有、進路の意識づけと進路実現に向けた段階的な就職・進学活動の支援を実施する。	進路指導部	①四者面談(生徒、保護者、担任、進路指導部員)の実施 ・生徒の進路希望の共有と今後の進路戦略の提示、立案をするため、3年生を対象に実施する。 ②進学者向け説明会の実施(生徒・保護者) ・おもに入試情報に関する説明会を実施する。 ③進路指導検討会の開催 ・生徒の進路希望等の情報を共有し、個別の進路戦略を立てることで生徒の学習意欲の高揚、適切な進路決定のための支援へとつなげる。	A	①四者面談(生徒、保護者、担任、進路指導部員)の実施⇒来年度も引き続き実施する。 ②進学者向け説明会の実施(生徒・保護者)⇒今年度は実施できず、来年度の実施を目指す。単独開催だけでなく「PTA総会」や「本土地区PTA」等の既存行事との同時開催を検討する。保護者の参加負担を軽減しつつ、進学に関する資金面や入試制度の複雑化について周知徹底を図る。 ③進路指導検討会の開催⇒来年度も引き続き実施する。		
			水産・海洋を学んだスペシャリストの育成、地域に必要とされる人材の育成のために進路指導支援体制を強化する。	進路指導部	①水産・海洋業界の次世代を担う人材を増やす ・より高度な学びに向かう環境を整備する(DXルームの積極的活用)。 ・担い手育成事業を活用し、積極的な漁業従事者へのインターンシップをおこなう。 ②基礎学力の定着、学びを習慣化する取り組みを実践 ・定期的に模擬試験の計画・実施をする(実力診断テスト、進学模試、小論文模試、公務員模試、SPI等)。 ・マナトレ等を活用し、学習活動の習慣化を意識する取り組みを実施する。 ③情報の積極的な収集 ・企業や大学等の情報を収集し、生徒と教職員に公開する。 ・ハローワーク、行政、企業、大学、専門学校との情報交換・協働事業の展開をはかる。	B	①水産・海洋業界の次世代を担う人材を増やす⇒1・2年次からのDXルーム利用を促進する。早期からICTやデータ活用等の先端技術に触れる機会を創出し、従来の海洋教育とDXを融合させた高度な学びへとつなげる。 ②基礎学力の定着、学びを習慣化する取り組みを実践⇒生徒へのアナウンスが不十分で、模擬試験を希望する生徒が少なかった。次年度より導入予定の「グローナビ」を全面的に活用する。生徒自身が学習到達度を可視化できる環境を整え、主体的な学びの習慣化と基礎学力の底上げを図る。 ③情報の積極的な収集⇒求人票、指定校推薦のオンライン公開が今年度の成果であった。デジタル(オンライン公開)とアナログ(進路カフェ)の相乗効果を狙う。進路カフェにおいては、入室してすぐに最新情報や重要トピックが目に入るレイアウトへの変更や掲示の工夫を行い、生徒が気軽に立ち寄りたくなる空間づくりを推進する。		
			生徒の状況把握と情報提供・共有に努め、関係機関との連携を図る。	保健部	担任や教科担当、その他関係部署と連携を密に取り、生徒の情報把握・共有に努める。	B	4月からカウンセリング後のコンサルテーションには担任だけでなく、対象者に関係する先生方にも集まってもらい情報共有をしたり、今後の方向性を一緒に考えたりする機会を設けた。副担任や教科担当者や部活動担当者等が加わることにより学校生活における様々な場面を通しての共有を行うことができた。今後も生徒の状態をしっかりと把握し、校内で情報共有を図り、家庭および関係機関の協力を得ながら安心・安全な環境づくりを図りたい。		
				保健部	スクールカウンセラーや特別支援学校のセンター的機能、合理的配慮アドバイザーの効果的な活用に努める。	B	今年度は昨年度と比較してスクールカウンセラーへの相談件数が増えた。また、必要に応じて隠岐養護学校のセンター的機能を活用して、検査を実施していただいたり、情報共有の機会を持ちアドバイスをいただいたりした。週に2回程度の通級指導も実施している。スクールカウンセラー来校日については、生徒に案内を渡すだけでなくホームページやメール等を活用し家庭への周知を図りたい。		
			望ましい勤労観の育成と進路指導の充実。	海洋テクノコース	地域の水産業体験や漁業者との交流をはかる。	A	定置網見学、卒業生による講話をおこなった。天候に左右されることが多かった。		
				海洋テクノコース	水産・海洋関連産業に興味・関心を植え付ける実習を展開する。	A	3年海洋テクノコース全員が水産・海洋関連へ進学・就職することができた。		
			希望進路に就職できるよう、意思疎通を図り支援する。	専攻科	進路指導部と連携を密にし、進路開拓・情報収集に努める。	A	進路指導部との情報共有を維持・向上する。		
			進路希望を考え、希望に添った進路を実現できる力をつけることができる。	1年学年部	進路に対する意識を早めに醸成する。 (1)本校で取得可能な資格を示し、受験に向けて取り組む。 (2)資格と就職を具体的に結び付けてガイダンス等を行う。	B	進路指導部からの様々な提案やクラスでの面談、授業を通して自分のキャリアに対しての意識が徐々に高まってきている。しかしそれに伴う具体的な行動を自ら起こす生徒がまだ少ない。自分のキャリアをしっかりと見据えるために、少しずつ情報収集をするとともに進路決定に必要な知識と技術を教科担当者や家庭と連携しながら身に付けさせたい。		
			学校生活と社会生活、将来の夢と学業を結びつけることにより、生徒の学習意欲を喚起する。	3年学年部	本校に在学する目的を意識させ、目的を見据えた日々の学校生活に取り組めるよう支援する。	B	定期試験毎に各教科担当の教員と学習状況の共有を図り、その状況を生徒にフィードバックする。具体的な改善策について、担任と学年部教員が連携して支援に当たる。		
			生徒・保護者・教員が現状を正しく認識し、必要な情報の収集・共有を行う。	3年学年部	生徒と保護者、学年部、進路指導部が共通認識を持てるよう、進路希望状況や進路スケジュール等について情報共有を行う。	A	生徒と保護者、学年部、進路指導部が共通認識を持てるよう活動できた。引き続き次年度も同様な形をベースにブラッシュアップした形で実施。		
			水産・海洋関連産業への就職および水産・海洋系大学等への進学を支援する学校体制の推進を図る。	3年学年部	進路希望の主体的な決定を促し、個別指導、集団指導等により希望進路に応じた指導を行う。	B	内定後の生活を見据えた学びの深化、修得すべき力にスポットを当てて、内定後も生徒が学ぶモチベーションを維持できるようにできるように学年部を中心に学校全体で支援を実施。例)資格取得、技術向上訓練(放課後等にPC技術向上実習実施など。出来る範囲で実施)		
4	人権教育、道徳教育、特別支援教育を根底に据えた教育活動の推進する	①校内組織および支援体制を充実し、安心・安全な学びの環境を整える。 ② あらゆる教育活動をとおし、人権意識と共生意識を育み、社会性を身につけさせる。 ③生徒個々の特性・状況把握に努め、保護者や特別支援学校等と連携した取り組みを行う。	学校の安全な環境整備と教育環境の美化と保持に努める。	保健部	校内安全点検,環境衛生基準検査を確実に実施し、安心、安全な環境改善に努める。	B	各学期ごとに安全点検を行った。先生方や事務部の協力により危険箇所の修復・修繕を進めることができた。学期ごとの点検時だけでなく、普段から安心・安全な環境づくりがスムーズに行えるようにしたい。	B	●今年度は実施できなかったものの、次年度に向けて人権教室の導入など具体的な改善策が示されており、人権教育の充実が期待される。
				保健部	清掃、美化活動に生徒が主体的に取り組めるように用具の確認と補充を行う。	B	安全点検時に掃除担当者から用具補充の要望があっても予算の関係で完全に補充出来ない場合もあったが、事務部にはできる限り対応していただいている。また、各掃除場所においても工夫しながら清掃活動を行っていただいた。出来るかぎり迅速に補充していきたい。		
			生徒個々が互いの人権を認め合い、尊重する態度の育成に努める。	人権・同和教育部	人権教育LHR等の計画を行い、広く生徒の人権意識を高める。また、同和問題を自らの問題としてとらえられるように働きかける。	B	人権教育LHRが生徒の人権意識を高めるきっかけになっている。しかし、今年度は学校生活など身近な人権課題を取り上げたため、同和問題を十分に扱うことができなかった。 授業が一過性のものにならないよう、生徒の権利を尊重しながら、全教職員で生徒の人権感覚を磨いていきたい。		
			豊かな人間性をそなえ、地域社会に貢献する生徒を育てる。	人権・同和教育部	人権的素養および道徳的素養を身につけさせるために、日頃の教育活動に加えて講演会などを計画・実施する。	C	今年度は講演会等を実施できなかったため、来年度以降は隠岐人権擁護委員会協議会の「人権教室」を校内で実施し、地域とのつながりをもちながら生徒の人権感覚を育てていきたい。		
			安全で充実した実習教育に取り組む。	エンジニアコース	保護具の点検・着用を徹底するとともに、使用前の工具類・機械類の安全確認を行う。	A	より安全・安心な実習を行うために不良機器類の購入に努める。		
			校内組織および支援体制の充実し、安心・安全な学びの環境を整える。	事務部	来校者、電話応対等の丁寧な接遇を心掛け、学校のイメージアップに努める。	A	接遇向上に努められた。今以上を目指し、職員相互に研鑽したい。 教育職員も、電話応答の際、3コールを超えて応答する場合は「お待たせしました」等行うとよい。		
				事務部	施設、設備修繕は、迅速な対応に努める。 老朽施設、設備改修の早期実施のための働きかけに努める。	A	修繕箇所の早期発見に努められ、予算獲得を働きかけたが予算令達がなかったところは故障個所の注意喚起のみであった。 同種のことの評価になるが、故障個所の注意喚起を行うことができたと考えている。		
				事務部	経費縮減(光熱水費、燃料費等)は、学校全体で取り組む。 四半期に一回程度、状況報告等による共有を行う。	B	朝礼、電子メールによる促しを行った。(例)教室が無人のままエアコン運転の対策　等 四半期に一度～は6年度には目標設定した一方、7年度は目標設定を取りやめたようにしたが前年の字句が残置(誤植)したものと思慮。従って、状況報告は行っていない。		
5	日本の水産・海洋教育を担う学校として、魅力と活力ある学校づくりを推進する。	① 地域や行政との連携をより一層深め、地域に貢献する積極的な活動を推進する。 ② 魅力ある教育活動を積極的に情報発信し、生徒募集に努める。 ③ 学校の持つ教育資源を積極的に活用する取り組みを推進する。	地域や行政との連携をより一層深め、地域に貢献する積極的な活動を推進する.	総務部	学校行事の円滑な運営を行うために、状況に応じた計画立案をする。学校行事についてアンケートを実施し、改善点は柔軟に対応し、事前周知を徹底し教職員に丁寧な説明を行う。	B	今後も行事は早めに計画し、適宜変更をしながら状況にあった行事を開催できるようにする。職員に反省アンケートを行い、可能な限り対応しながら計画を立案する。学校行事の精選を職員、保護者、地域の方の声を聞きながら検討するが、変えてはいけない古き良き伝統は守る。	A	●魅力と活力ある学校づくり、情報発信や地域連携の取り組みは良い。加えて、授業公開や交流イベントなどを通じて、地域の方に実際の学校の様子を知っていただく機会を増やすことも有効である。また、生徒には自治会や公民館の活動に協力するなど地域に出かけて、地域の方と一緒に活動するとより、学校の雰囲気や考えを知っていただけると思う。 ●情報発信によく取り組まれている。特にHPやインスタグラムなどの更新が頻繁に行われ、生徒・保護者・地元関係者などに学校の様子がわかりやすい。
				総務部	各行事において、PTAや地域の方々の積極的な参加ができるように広報などを利用し、学校の情報発信に努める。学校行事の精選を保護者、地域の方の意見をふまえて検討する。(全隠岐カッターレースか校内カッターレースなのかを検討する。)行事要項が決まったらHP等で案内などできる限り公表していく。	A	保護者が参加できる学校行事が減少しているため、生徒を見ていただける機会を模索する。 「まメール」をうまく使い保護者に日常情報の発信の仕組みを考えたい。また、登録の呼びかけを行い、行事ごとに参加の発信ができないか行事担当と検討していく。		
			魅力ある教育活動を積極的に情報発信し、生徒募集に努める。	総務部	オープンスクールで隠岐水産高校の情報発信をする。生徒だけでなく、教職員に関しても参加を呼びかける。学校関連グッズで積極的に、隠岐管内の学校に情報発信する。今年度も島内施設の体験受け入れは可能な限り行う。PTAたよりを発行し、ペーパーレス化を進めていく。HPでも学校アピールを行う。	A	PTA便りは4月のみの発行となった。ホームページ、インスタグラムを充実し、いつも新鮮な情報発信を行った。1年で終わることなく今後も続ける。また、学校の現状をまとめた「便り」も発行し、島内配布し情報発信する。 大変だとの意見もあるが、生徒募集のために、オープンスクールは例年通り計画する。また、学校見学などは必ず対応できるように体制を整える。 次年度も中学校体験、幼稚園、特別支援学級、小学校の遠足などの対応を行い水産高校理解の基礎となるべく、可能な限り対応する。		
			HPなどで魅力ある教育活動を積極的に情報発信し、保護者への情報共有や生徒募集に努める。	教務部	オンライン説明会や学校見学、体験学習等が円滑に行えるよう関係部署との連携を密にし、時間割や教員配置等で協力する。	B	時間割変更等の対応がぎりぎりになることもあったので、関係部署との連携を密にし、遠足や体験学習の計画等を早期に知ることにより、滞りなく時間割変更等の対応をしていきたい。		
			水産海洋教育を担う学校として、魅力と活力ある学校づくりの推進。	海洋テクノコース	実習内容を記録し、積極的な情報発信を行う。	A	組織的な取り組みを検討する必要がある。		
			地域との連携・積極的な情報発信に取り組む。	エンジニアコース	企業・施設などと連携した設備製作を行う。	A	生徒が主体性を持って地域と連携し、新製品の開発を行う。		
			地域との交流・連携を図り、地域への貢献を目指す。	食品生産コース	・小中学校、養護学校との交流学習や出前授業を行う。 ・実習製品の地域への販売による学校のPRを行う。 ・地域産業界との連携を図る。(大学、商工会、業者、漁協等) ・実習の原料をなるべく地元のものを使い、地産地消を目指す。	A	出前授業は出来なかったが、養護学校との交流学習は計画通り終えることが出来た。実習後の食事会で更に交流を深めることが出来たと思う。缶詰販売も町内量販店で2回、養護学校で1回行い、数千缶の実習缶詰を販売できた。		
			新製品の開発を目指す。	食品生産コース	隠岐の島の特産品となる製品を開発する。本年度も昨年度に引き続き隠岐産イチゴを使ったジャムの試作を行う予定。水産物についても同じく新製品若しくは以前製造していた製品の復活を試みる。	A	隠岐の島町産の 「よつぼし」を原料としたイチゴジャムは軌道に乗りつつある。今年度末は何とか販売に辿り着きそうである。		
			地域や行政との連携をより一層深め、地域に貢献する積極的な活動を推進する。	資源生産コース	隠岐支庁水産局、役場、地元漁業者、島根大学等と連携し、地域の問題を発見し、解決方法を模索する。	B	今年度も地元漁業者や隠岐支庁水産局等と連携し、ワカメの種苗生産やキジハタの中間育成、ナマコの放流などを行うことができた。来年度は島根大学との連携を深めていきたい。		
			魅力化推進校、DXハイスクール認定校として、学校の持つ教育資源の積極的活用に取り組む。	資源生産コース	小学生、園児などの施設見学や学習活動を通して、資源生産コースの魅力を発信する。	A	小学生や園児などにタッチプールや餌やり体験を行うことにより、資源生産コースの魅力をアピールすることができた。体験内容がマンネリ化してきているので、新しいメニューを増やしたい。		